

浄相院  
だより

# 寿光

第66号

平成26年9月4日  
発行：浄相院  
畑中芳隆

〒332-0035  
川口市西青木1-10-34  
TEL 048 (251) 5984  
FAX 048 (251) 5792



## 時々剋々 しくいつもそこに

シウカツという言葉を聞かれたことが  
ありますか？

就活ではありません、終活です。来るべき  
私たちの最期臨終に向けて準備しておくべき  
ことの活動としてここ数年よく使われるよう  
になりました。最近エンディングノートなる  
ものも多数出版されています。

あるノートのページの項目のひとつに「亡  
くなつた後あなたはどこに行つて何をするの  
か」という質問がありました。私たちはとも  
すれば自分亡きあと相続はこうして、お葬式  
はあの場所規模はこのくらいでなどと現実  
ばかりを心配しますが、はて、肝心な自分は  
その時をどう迎えたらいいのでしょうか。

善導大師が残された『発願文』というお経  
には、人は臨終のときに心が動じないで身体  
の苦痛がなく快い状態で阿弥陀さまはじめ多  
数の仏さまを迎えにきてくださる。

そして極楽に生まれたならば修行して六神

通という力を身につけてこの世に遺してきた  
者たちを助け、救つていこうと説かれていま  
す。

あるいは、そんな気休めなど期待しない、  
死んだらおしまい、と思われる方もいるかも  
しれません。でも私はそんなに強くありません。  
死にたくない、生きていたいそう思いま  
す。しかしどうしても死を受け入れなくては  
ならないならばその先の安らぎの地を求めま  
す。頼み、信じてゆく大いなる存在を求めま  
す。

そんな人の自然な感情があつてこそお念仏  
の教えが今に伝わっているのです。阿弥陀さ  
ま助け給えとナムアマダブツと声に出してお  
称えをする。声に出せば必ず応えてくださる  
のが仏さまです。必ず救つてくださるのが仏  
さまです。

先日、岩手県大槌町にある「風の電話」と  
いう電話ボックスのことが報道されていまし  
た。震災でたいせつな方を亡くされた人が浄  
土にいるその人と静かに対話をするための場  
所です。地元の佐々木 格さんという方が

設置されたそうです。

この電話には電話線がありません。あるの  
は一枚の張り紙と備え付けのノートだけ。  
その紙にはこうあります。

「風の電話は心で話します 静かに目を閉  
じ 耳を澄ましてください 風の音が又は浪  
の音が 或いは小鳥のさえずりが聞こえたな  
ら あなたの想いを伝えて下さい」

そのノートには想いの丈が綴られています  
た。幾人もの人たちがこの電話でたいせつな  
方々とお話をされたことでしょう。

今を生きる私たちと仏さまや先に往生され  
たいせつな方をつなぐ想い、これこそがナ  
ムアマダブツの一声です。

時々剋々と時は過ぎていきます。蝉の声も  
気がつけば遠のいて秋のお彼岸が近づいてき  
ました。

当山では秋分の日には彼岸法要をおつとめし  
ます。(詳しくは本誌巻末をご参照ください)  
いつもそこにいる仏さま、たいせつな方と一  
緒という想いで共々にお念仏をお称えいたし  
ましょう。皆さま方のご来寺をお待ちしてお  
ります。



(住職 畑中 芳隆)